

保育者養成校の学生の実習における対人 コミュニケーション不安の考察

——乳幼児・保育者・保護者に対するコミュニケーション
不安の自由記述の分析——

三 澤 恵

要 旨

本学部の学生が、保育実習における対人コミュニケーションでどのような不安があるのか調査し、自由記述のテキスト分析を行った。その結果、乳幼児不安は「自分に対する乳幼児の態度」「乳幼児の対応」「知識・経験不足」「気持ちの理解」「言葉の理解」の5つに分類された。次に、保育者不安は「保育者との会話」「自分に対する保育者の態度」「自分に対する保育者の評価」「保育者との関係」「保育者に対する態度」「自分の行動」「保育者の理解」の7つに分類された。また、保護者不安は「保護者との会話」「子どもの様子の把握」「自分に対する保護者の態度」「自分に対する保護者の評価」「保護者との関係」「保護者に対する支援」「保護者に対する態度」「保護者の理解」の8つに分類された。以上の結果から、学生の経験を豊かにするためのボランティアや交流イベントの企画、体験を交えて理解していくことができるような授業の検討、マナー講座や敬語を实践できる環境作りなど、期待を持って実習での貴重な学びができるように、自信を育む実習指導を検討していくことが今後の課題である。

キーワード：保育者養成校、実習不安、対人コミュニケーション、実習指導、
テキストマイニング

1. 研究の目的

近年、認定こども園の制度化によって、保育者養成校の殆どの学生が保育士資格と幼稚園教諭免許状の両資格の取得を希望している。その為、多くの学生が保育実習（施設実習も含む）と教育実習を行っており、実習指導の必要性は高まる一方である。しかし、実習に向けての指導は専門的知識だけでなく、マナー講座や服装指導など多岐に渡る。また、実習先の間人関係に不安を抱く学生も多く、授業期間の指導では補うことが困難な状況になっている。

保育実習に関する不安要素の研究では、原（2006）は保育実習（保育所実習と幼稚園実習）に関する不安について「対人関係」「部分・責任実習」「日誌および内容」「ピアノ」の4因子を抽出した。長谷部（2007）は、短期大学生の保育実習における実習不安感を分析し、「指導」「人間

関係」「事前理解」「活動内容」の4因子を明らかにしている。その中でも、指導の責任や人間関係の構築に関する因子について不安が高いと述べている。また、高橋ら（2007）は「こどもとのコミュニケーションに関する不安」「保育上としての役割に関する不安」、「実習環境や内容に関する不安」の3因子を述べている。また、コミュニケーションや保育士としての役割に関する不安に関しては、存在しても学生自身では対処行動がとりにくいのではないかと考察している。

中西（2008, 2009, 2010）は実習前後の不安を調査した結果、「保育実習実技に関するもの（保育技術）」「子どもとの関係（対子ども）」「指導者との関係（対先生）」「自分自身に関わること（態度行動）」の4因子に分類した。箱井（2013）は、女子短期大学生の保育実習時の不安を調査した結果、化粧や服装に関する「装い不安」と親や保育者にどのように見られるかという「評価不安」、周囲への言葉遣いなどに対する「振る舞い不安」の3因子を明らかにした。貴田（2010）、施設実習前不安感の「入所児者との関係不安」、「実習完遂不安」、および「対人関係不安」の3因子構造を報告している。

教育実習に関する不安要素の研究では、杉山（2002）は幼稚園での教育実習に対する不安意識を調査し、「社会的コミュニケーション不安」、「対園児コミュニケーション不安」、「健康管理不安」の3因子を抽出している。善明・南本（2004）は中高での教育実習の不安について、「教科指導」、「生徒との関係」、「生徒への指導力」、「教師との関係」の4因子を抽出している。入江ら（2014）は「子ども不安」「指導力不安」「健康不安」「身なりの不安」の4因子を述べており、「子ども不安」が最も高いことを明らかにしている。

先行研究で述べられている不安因子を大きな枠組みで捉えると、「対人関係の不安」と「専門性の不安」「自分に関する不安」の3つに分類することができる。「対人関係の不安」は、実習先の子ども（園児・生徒）や入所者、指導者（教師）、保護者との関係性及びコミュニケーションの不安である。「専門性の不安」は、保育実習でのピアノや設定保育（部分・責任実習）、指導技術であり、教育実習では教科指導、生徒指導力の不安である。「自分に関する不安」は、活動や内容の理解、態度行動、言葉遣い、装いや振る舞いなどのマナー、健康管理などであると考えられる。実習での保育の専門性や自分自身の態度やマナーに関する不安要素は事前指導の方法を検討する必要があるが、対人コミュニケーションに対する不安については、実習場面でのどのようなコミュニケーションに不安を感じているか具体的な調査が必要である。質問紙調査では質問項目が決まっているため、本研究では学生が感じている不安を自由記述した内容を分析することとした。学生が保育所や幼稚園での実習で必要となる対人関係は、主に乳幼児と実習先の保育者であろう。また、乳幼児の保護者とも、登園・降園時に挨拶をすることがある。そのため、学生が乳幼児・保育者・保護者とのコミュニケーションを取る上で不安があるのかどうか、また、どのようなコミュニケーション不安があるのかについて検討することを本研究の目的とした。

2. 研究対象と方法

本学子ども学部1～4年生に2015年7月に質問紙調査を実施し、191名（男性66名、女性

125名)から回答を得た(1年生62名,2年生80名,3年生33名,4年生16名)。質問項目の中で、実習における対人(乳幼児,保育者,保護者との)コミュニケーション不安について自由記述を求めたところ、153名(1年生53名,2年生53名,3年生30名,4年生16名の回答があった。153名の自由記述の分析を行い、対人コミュニケーションの不安について検討した。学年別の比較も行ったが、学年によってサンプル数に差があったので、本研究では全学年で分析を行った。乳幼児・保育者・保護者の自由記述について、それぞれのデータについてKHcodarの分析ソフトを用いて、テキストマイニングの方法で分析を行った。

3. 結果

3-1. 単語頻度解析

保育実習における乳幼児とのコミュニケーション不安に関する自由記述に多く出現している単語を確認するために、単語頻度解析を行ったところ、「言葉」が14回で最も多く、次いで「分かる」が11回、「接する」が7回、「泣く」が6回であった。「対応」「通じる」が5回、「関わる」「言う」「上手い」「知識」「理解」「話せる」が4回となっていた。このことから、乳幼児に対しては言葉でのコミュニケーションに関する不安、理解や接し方に関する不安が記述されていると推察される。

次に、保育者とのコミュニケーション不安に関する自由記述の単語頻度解析をしたところ、「質問」が7回で一番多く、次いで「怖い」「分かる」が6回、「出来る」「人間関係」「話す」が5回、「感じる」「強い」「見る」「言う」「聞く」「忙しい」「迷惑」「良い」が4回となっていた。この結果から、学生は保育者に質問をする際のコミュニケーションや保育者の態度について不安を感じていると予想される。

また、保護者とのコミュニケーション不安に関する自由記述の単語頻度解析では、「対応」が20回で最も多く、次いで「子ども」「分かる」が15回、「モンスターペアレント」が10回となっていた。「話す」が9回、「会話」「言う」「聞く」が7回、「上手い」「怖い」が6回、「関わる」「接する」「立場」「話」が5回、「経験」「時間」「出来る」「保育」「良い」が4回であった。この結果から、学生は保護者と接する経験が少ないため、対応に不安があると思われる。

3-2. 乳幼児とのコミュニケーション不安のテキスト分析

乳幼児について学生がどのようなコミュニケーション不安を抱いているか、回答の単語と内容を検討し、「自分に対する乳幼児の態度」「乳幼児の対応」「知識・経験不足」「気持ちの理解」「言葉の理解」の5つのコードに分類した(表1)。

表1 乳幼児とのコミュニケーション不安のコーディングルール
 (*コード名、下段はコードに含まれる言語)

<p>*自分に対する乳幼児の態度 泣かれ or ケンカ or わがまま or 人見知り or 障がい or 無視 or 信用 or 仲良く or 慣れる or 嫌がられ</p> <p>*乳幼児の対応 接する or 接し方 or 関わる or 対応 or 個々 or さわりにくい or とまどう or 良い or 適切 or 上手く or 正しい or 慎重 or 伝わる or 勇気 or 合わせる or 起こして or 泣かし or けが or 遊んで or どこまで or なにをすれば or 手遊び or 笑える or プレッシャー or 全体 or 話す or 話せる or 声がけ or とまどう or どのように or あそべるか or とりにくさ</p> <p>*知識・経験不足 知識 or 機会 or 特徴 or 経験 or 手遊び or 接したことがない</p> <p>*気持ちの理解 読み取れない or 読みとれない or 気持ち or 受け取る or 意思 or 疎通 or 欲して or 分かりづらい or 予想 or 想定外 or 行動 or 理解 or 理解し合える or 訴え</p> <p>*言葉の理解 話 or 会話 or 話せない or しゃべれない or 通じる or 伝わる or 喃語 or 言いたい</p>

次に、各コードに含まれる単語の出現頻度を集計したところ、「乳幼児の対応」が51.2%と最も多く、次に「気持ちの理解」「言葉の理解」の順であった(表2)。

表2 乳幼児とのコミュニケーション不安のコード別集計
 (分母は文書数 (n=84))

コード名	出現回数	割合
*自分に対する乳幼児の態度	11	13.1%
*乳幼児の対応	43	51.2%
*知識・経験不足	12	14.3%
*気持ちの理解	18	21.4%
*言葉の理解	16	19.1%

各コードでの象徴的な回答として、「自分に対する乳幼児の態度」では、子どもが泣かないか、自分に慣れてくれるかなどの不安であった。「乳幼児の対応」では、遊びやトラブル時の対応やどこまで関わるのがよいかなどの対応方法や関わり具合に不安がみられた。「知識・経験不足」では、子どもと関わる機会や経験、知識不足についての不安が多く記されていた。「気持ちの理解」では、子どもの行動や表情などを読み取ることができるか、理解できるかといった不安がみられた。「言葉の理解」では、言葉が話せない・通じない乳児との関わりについて不安が述べられていた(表3)。

表3 乳幼児とのコミュニケーション不安の象徴的回答

<p>*自分に対する乳幼児の態度</p> <ul style="list-style-type: none">・人見知りが激しい子どもは慣れてくれるのに時間がかかるといったため・泣かれたりしないか <p>*乳幼児の対応</p> <ul style="list-style-type: none">・泣いている時、怒っている時にどのような声がけをしたらよいか分からない時がある。・一緒にあそべるかコミュニケーションがとれるか <p>*知識・経験不足</p> <ul style="list-style-type: none">・今まで、乳幼児と接する機会がなかったので、どうやって話そうかとかの不安があります。・発達段階の特徴がつかめてない。 <p>*気持ちの理解</p> <ul style="list-style-type: none">・この子が何を言いたいのか何を欲しているのかが読み取れないかもしれない・子どもの気持ちを察することができるか <p>*言葉の理解</p> <ul style="list-style-type: none">・言葉が通じないので、意志疎通ができるか不安。・言いたいことが理解できるかどうか
--

3-3. 保育者とのコミュニケーション不安のテキスト分析

乳幼児の分析と同様に、保育者について学生がどのようなコミュニケーション不安を抱いているか、回答の単語と内容を検討し、「保育者との会話」「自分に対する保育者の態度」「自分に対する保育者の評価」「保育者との関係」「保育者に対する態度」「自分の行動」「保育者の理解」の7つのコードに分類した(表4)。

表4 保育者とのコミュニケーション不安のコーディングルール
 (*コード名、下段はコードに含まれる言語)

*保育者との会話
きく or 声を掛け or 会話 or 言葉 or 言葉使い or 言葉づかい or 話す or 話 or お話 or 話し方 or 話せる or しゃべれる or はなせる or 話しかける or 話題 or 敬語
*自分に対する保育者の態度
しかる or 注意 or 指導 or 強い or 強く or 指示 or 理不尽 or 怒る or こわい or 怖い or 恐い or 言われ
*自分に対する保育者の評価
思われ or じゃま or 邪魔 or 迷惑 or めいわく or 目 or 見られ or 評価 or 視線 or 信頼 or 姿勢 or 出来ない or 不快 or 知識
*保育者との関係
すれ違い or 見られ or 相談 or 相性 or 違い or 違う or 人付き合い or 人間関係 or 合う or 合わない or もめる
*保育者に対する態度
問題 or 無意識 or 失礼 or コミュニケーション or 上手い or うまい or 良い or 質問 or 疑問 or 内容 or タイミング or 人見知り or 接する or 接して or 接し or 接 or 接し方 or 関わる or 関わり方 or 関わり or 取れない or 緊張 or あいさつ
*自分の行動
積極的 or 動ける or コミュ障 or プレッシャー or 思いどおり or 足をひっぱって or 力 or 失敗
*保育者の理解
最初 or わからない or 分からない or イメージ or どろどろ or 雰囲気 or 女性 or 理解 or 保育士 or 抵抗 or 気持ち

次に、各コードに含まれる単語の出現頻度を集計したところ、「保育者に対する態度」が32.2%と最も多く、次に「自分に対する保育者の評価」が21.1%であった(表5)。

表5 保育者とのコミュニケーション不安のコード別集計
 (分母は文書数 (n=90))

コード名	出現回数	割合
*保育者との会話	14	15.6%
*自分に対する保育者の態度	16	17.8%
*自分に対する保育者の評価	19	21.1%
*保育者との関係	16	17.8%
*保育者に対する態度	29	32.2%
*自分の行動	6	6.7%
*保育者の理解	17	18.9%
*その他	3	3.3%

各コードでの象徴的な回答として、「保育者との会話」では、話す内容、言葉遣いに関する不安などがみられた。「自分に対する保育者の態度」では、視線や注意・指導に対する不安、怒ら

れることに対する不安を感じていることが分かった。「自分に対する保育者の評価」では、自分がどう思われているか、邪魔や迷惑になっているのではないかという不安が記されていた。「保育者との関係」では、話や相性・考え方が合うかなどの関係性についての不安であった。「保育者に対する態度」では、挨拶や聞くタイミングが失礼になっていないか、コミュニケーションの苦手意識などの不安がみられた。「自分の行動」では、積極的に動けるか、失敗したり足をひっぱったりしないかなどの不安であった。「保育者の理解」では、保育者の話や気持ちを理解できるか、女性社会に対する不安などがみられた（表6）。

表6 保育者とのコミュニケーション不安の象徴的回答

<p>*保育者との会話</p> <ul style="list-style-type: none">・ 仕事で忙しそうにしている姿を見ると声を掛けていいの不安になる・ ベテランの人と話すのは緊張するから <p>*自分に対する保育者の態度</p> <ul style="list-style-type: none">・ 言い方が強い人など怖いと感じる・ たくさん注意されそうで少し恐いです。 <p>*自分に対する保育者の評価</p> <ul style="list-style-type: none">・ 出来ない実習生だと思われてしまわないか・ 実習生として視線やどう思われているか怖い <p>*保育者との関係</p> <ul style="list-style-type: none">・ 考えなどが全くちがったり、相性が合わなかったらどうしようとか・ 上手く人付き合いができるか <p>*保育者に対する態度</p> <ul style="list-style-type: none">・ 失礼なことをしないように心がけていても、無意識のうちにしまっているかもしれないから・ 緊張しても、大きな声で挨拶や設定保育などの相談が上手く出来るかどうかの不安 <p>*自分の行動</p> <ul style="list-style-type: none">・ 自分が役に立てず足をひっぱっているかもしれないから申し訳ない・ 自分の失敗で先輩方にめいわくをかけそう <p>*保育者の理解</p> <ul style="list-style-type: none">・ 保育者の気持ち理解・ 先生が言っている意味を理解しているか
--

3-4. 保護者とのコミュニケーション不安のテキスト分析

実習時に保護者と関わる機会は少ないが、学生がどのようなコミュニケーション不安を抱いているか、回答の単語と内容を検討し、「保護者との会話」「子どもの様子の把握」「自分に対する保護者の態度」「自分に対する保護者の評価」「保護者との関係」「保護者に対する支援」「保護者に対する態度」「保護者の理解」の8つのコードに分類した（表7）。

表7 保護者とのコミュニケーション不安のコーディングルール
 (*コード名、下段はコードに含まれる言語)

<p>*保護者との会話 会話 or 言葉 or 言葉使い or 言葉づかい or 話す or 話 or お話 or 話し方 or 話せる or しゃべれる or はなせる or 話しかける or 話題</p>
<p>*子どもの様子の把握 子どもの状態 or 子どもの事 or 子ども or 聞かれる or 見ていない or 子どもにとっての最善 or 子どもの様子 or 子どもの情報 or 子どもが怪我 or 子ども同士のトラブル or 子どもを預かる or 連絡 or 的確 or ちゃんと答え or お子さん or ふれる or 観察</p>
<p>*自分に対する保護者の態度 バカにされそう or 言われる or いわれそう or おこる or 強く or 理屈 or 通らない or パターン or クレーム or かんげい or モンスターペアレント or モンスターペアレンツ or モンペ or モンスター or 恐怖 or こわい or 怖い</p>
<p>*自分に対する保護者の評価 評価 or じゃま or 目 or 見られている or 信頼 or 新人 or 男性 or 偏見 or 未熟 or 預ける or 大丈夫 or 知識 or 不満 or 経験</p>
<p>*保護者との関係 良い関係 or 人間関係 or 築ける or ケンカ or 傷つける or 怒らせる or 連携 or 合わない or もめる or 踏み込む or 付き合う or 接点 or 実習生 or でしゃばる or 立場 or 色んな親 or なれる</p>
<p>*保護者に対する支援 受け止める or 心配事 or 理解 or 返答 or アドバイス or サポート or 専門的 or 質問</p>
<p>*保護者に対する態度 失礼 or 緊張 or 上手い or 接し方 or 接する or 接 or 接す or 関わる or 関わり方 or 関わり or 対応のしかた or 対応の仕方 or 対応の無知 or 対応 or コミュニケーション or 答えられるか or 人見知り or 下手 or 適切 or あいさつ or しでかす</p>
<p>*保護者の理解 世代の親 or 思想 or 違い or 家庭 or 最近の親 or 気持ち</p>

また、各コードに含まれる単語の出現頻度を集計したところ、「保護者に対する態度」が35.3%と最も多く、次に「保護者との会話」22.8%の順であった(表8)。

表8 保育者とのコミュニケーション不安のコード別集計
(分母は文書数 (n=136))

コード名	出現回数	割合
*保護者との会話	31	22.8%
*子どもの様子の把握	18	13.2%
*自分に対する保護者の態度	29	21.3%
*自分に対する保護者の評価	14	10.3%
*保護者との関係	22	16.2%
*保護者に対する支援	8	5.9%
*保護者に対する態度	48	35.3%
*保護者の理解	5	3.7%
*その他	3	2.2%

各コードでの象徴的な回答として、「保護者との会話」では、会話の内容や失礼のないように会話が上手くできるかなどに関する不安であった。「子どもの様子の把握」では、保護者に子どものことを伝えたり、怪我などの報告がきちんとできるかといった不安がみられた。「自分に対する保護者の態度」では、モンスターペアレントの対応、クレームや怒られることに対する不安などを感じていることが分かった。「自分に対する保護者の評価」では、自分の経験の少なさや信頼してもらえないのではないかという不安が記されていた。「保護者との関係」では、実習生の立場でどのように関わるのか、関係の距離感などの不安であった。「保護者に対する支援」では、実習時だけでなく、将来保育者として関わる際に質問や相談に答えることができるかなどの不安がみられた。「保護者に対する態度」では、失礼な接し方や言葉遣い、態度を取らないかといった不安が記されていた。「保護者の理解」では、最近の保護者の考え方や気持ちが分かるかなどの不安であった(表9)。

表9 保護者とのコミュニケーション不安の象徴的回答

<p>*保護者との会話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失礼のないように会話をしたり、状況を伝えること。 ・どのような会話をすれば良いかわからない <p>*子どもの様子の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状態についてうまく話せるか ・子どもが怪我したときや子ども同士のトラブルに対して、どのように話したらよいのか <p>*自分に対する保護者の態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな親がいるのか不安(怖いかもしれない) ・最近ではモンスターペアレントが多いと聞くから <p>*自分に対する保護者の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がどうゆう風に評価されてるのか気になる ・まだ親になったことないし、経験もないので保護者に信頼されないと思うから <p>*保護者との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対して実習生の立場としてどう接すればよいかいまいちわからないから。 ・どのあたりまで踏み込んでよいのかいつも戸惑う。話しかけてよいものか。 <p>*保護者に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不安を解消するようなアドバイスが出来ないかもしれない。 ・専門的なことを聞かれた時に自分が答えてしまってもいいのか。 <p>*保護者に対する態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで保護者とコミュニケーションを取ったことがないのでどのように話をしたら良いのか分からない ・接し方や言葉づかいなど上手く出来るか不安 <p>*保護者の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者にきちんと自分の意見が言え、保護者の気持ちを分かることができるか ・今の世代の親が考えることが分からない
--

4. 考察とまとめ

本学部の学生が、保育実習における対人コミュニケーションでどのような不安があるのか調査し、自由記述のテキスト分析を行った。その結果、乳幼児とのコミュニケーション不安は「自分に対する乳幼児の態度」「乳幼児の対応」「知識・経験不足」「気持ちの理解」「言葉の理解」の5つに分類された。学生は、乳幼児と仲良くなれるか、遊びやトラブルの対応ができるか、言葉や気持ちを理解できるかに不安を持ち、知識や経験不足を感じていた。次に、保育者とのコミュニケーション不安は「保育者との会話」「自分に対する保育者の態度」「自分に対する保育者の評価」「保育者との関係」「保育者に対する態度」「自分の行動」「保育者の理解」の7つに分類された。学生は、保育者の態度や評価を意識しており、自分の態度や行動が失敗や迷惑にならないか不安を感じていた。また、保護者とのコミュニケーション不安は「保護者との会話」「子どもの様子の把握」「自分に対する保護者の態度」「自分に対する保護者の評価」「保護者との関係」「保護者に対する支援」「保護者に対する態度」「保護者の理解」の8つに分類された。学生は保護者とどのように関わるか、何を話すかなどの対応に不安を持ち、自分が失礼な言葉や態度を取らないか意識していることが明らかになった。

乳幼児とのコミュニケーション不安で特徴的だったのは、「言葉の理解」である。学生は乳児の喃語を理解できるかといった不安を感じていた。このことは、乳児と触れ合う体験不足、乳児の発達段階の理解不足だけではなく、ノンバーバルコミュニケーションの経験不足も考えられ

る。近年、学生が利用することの多いSNSなどによってコミュニケーションはデジタル化され、相手の表情や動作から気持ちを読み取るようなノンバーバルコミュニケーションの経験が減少している。その為、有意味語を話すまでの乳児に対して、言葉以外でどのように気持ちを読み取ったらよいのか不安になるのではないだろうか。このような不安を軽減するためには、学生が乳児を観察しながら気持ちを考察し、保育者や保護者などが解説をする機会を持つことが有効であると考えられる。また、乳児が有意味語を話せない月齢であっても、大人の表情や言葉の抑揚などから気持ちを理解していることを説明し、こちらから積極的に話しかけることの重要性を伝える必要がある。そして、保護者からの声掛けに対する乳児の発音、表情、動作などの変化を学生が理解し、関わり方を真似てみるといった演習活動を授業に取り入れる方法が考えられる。授業での学びと体験での学びを繰り返すことで実感しながら理解していく環境を作り出すためには、地域の親子を授業に招いたり、学生が学びに行ったりすることのできる施設との連携が必要である。

保育者とのコミュニケーション不安で特徴的だったのは、「保育者との関係」である。学生は実習で関わる保育者との相性や思考の一致、付き合いが上手くできるかといった不安を感じていた。このことは、実習生として学ぶ立場の認識不足、友人関係ではない社会的な人間関係を構築する経験不足だけでなく、自己肯定感の低さも予想される。本来、実習における保育者とのコミュニケーションは、仲良くなることが目的ではない。しかし、学生は自分がどのように見られているかをとても気にしており、自分との相性や思考が合わない、親しくなれない関係だと精神的に不安定になり、嫌われているのではないかと、迷惑や邪魔になっているのではないかと自己否定的になるのではないかと考えられる。このような不安を軽減するためには、授業で実習生として学ぶ姿勢のあり方を伝えること、社会的な人間関係を築くための態度や言葉遣いなどのマナー講座の機会を持つこと、実習や授業のように評価が付かず、安心して子どもと保育者に会えるボランティア経験の場を設けることが求められる。また、自己を客観的に見つめ、他者からの視線や評価に対して情緒不安定になったり、過敏になったりせずに、適切に受け入れることができる柔軟な精神を育てる必要がある。

保護者とのコミュニケーション不安で特徴的だったのは、「子どもの様子の把握」と「保護者との会話」である。学生は実習で関わる保護者とどのような会話をしたらよいか、子どもの報告ができるかといった不安を感じていた。このことから、保護者と接する経験不足、実習生としての立場を踏まえた行動の理解不足が考えられる。実習生の立場で、保護者に子どもの様子の報告を行うことはあまりないと予想されるが、学生はどこまで対応するのか理解できていない為、不安を感じていることが分かった。このような不安を軽減するためには、実習生が保護者と出会った際の対応についても、授業で説明しておく必要がある。具体的には、送迎時の保護者に対する挨拶や姿勢を実践して見せ、何か連絡を受けた際には保育者に引き継ぐこと、分からないことは自己判断せずに保育者を呼びに行くことなどである。

これまでは、実習不安に関する質問項目の中から不安要素の検討や分類が研究されてきたが、本研究では自由記述から学生の具体的な不安要素を抽出し、漠然とした不安を整理することがで

きた。今回行った方法を授業で取り入れ、学生が感じている実習不安を具体的に書き出し、問題を整理することによって、学生自身が課題や解決策を考えたり、教員が具体的な助言をすることができるだろう。また、実習での不安と就職してからの不安の整理を付け、実習生としての立場や行動を理解しながら、段階を踏んで学んでいく目標設定を立てることもできるだろう。そして、学生が不安に対する向き合い方を知ることで、失敗や間違いを恐れるのではなく、自分を成長させるチャンスだと捉えていく前向きな気持ちを育てることが重要である。

参考文献

- ・箱井英寿 (2013) 「保育における装いの社会・心理的効果の検討：保育実習における装い不安・被服意識の変化」『日本教育心理学会総会発表論文集』55, 452.
- ・原信夫 (2006) 「保育実習に関する不安について」『清和大学短期大学部紀要』35, 79-89.
- ・長谷部比呂美 (2007) 「保育実習に関する学生の意識について－実習不安を中心として－」『淑徳短期大学研究紀要』46, 81-96.
- ・貴田美鈴 (2010) 「保育実習（施設）の事前指導における学生の意識－実習への期待感と不安感を中心に」『岡崎女子短期大学 学術教育総合研究所所報』3, 31-42.
- ・中西和子 (2008) 「保育実習における不安の変容に関する一考察（1）」『日本教育心理学会総会発表論文集』50, 265.
- ・中西和子 (2009) 「保育実習における不安の変容に関する一考察（2）：グループワークを多用した準備授業の影響」『日本教育心理学会総会発表論文集』51, 267.
- ・中西和子 (2010) 「保育実習における不安の変容に関する一考察（3）：グループワークを多用した準備授業の影響」『日本教育心理学会総会発表論文集』52, 668.
- ・杉山喜美恵 (2002) 「教育実習事前指導のあり方について 2. 教育実習に対する学生の不安要因」『東海女子短期大学紀要』28, 167-177.
- ・善明宣夫・南本長穂 (2004) 「教育実習の研究（1）：実習生の不安を中心として」『教職教育研究：教職教育研究センター紀要』9, 1-10.
- ・高橋秀典・島崎保・井上光一・森脇裕美子・中磯子・田中麻貴 (2007) 「保育実習前の実習生の不安要因」『日本教育心理学会総会発表論文集』49, 183.
- ・入江和夫・福地昭輝・入江三津子 (2014) 「学生の保育実習不安と自立感」『教育実践総合センター研究紀要』38, 21-28.